

岡山市立中学校の教育課程に関する研究

— 学校教育目標の分析・類型化 —

住野 好久 ・ 三島 知剛* ・ 藤枝 茂雄 ・ 山崎 光洋*
宮本 浩治 ・ 今井 康好*

岡山市立中学校全38校の学校教育課程、特にそれを構成する要素の一つである学校教育目標に着目し、その特徴を明らかにするとともに類型化を行った。学校教育目標に使われている言葉の分析からは、「心の教育 豊かな心」「自ら学ぶ力 自己学習力」「健康体力」といった学習指導要領のキーワードが多く使われていること、そして岡山市立中学校の特徴としては岡山市の教育が目指す「自立する子どもの育成」を踏まえた「自主 自立 主体性」という言葉や「努力 向上心 がんばる」「人権尊重」という言葉が多く使われていることが明らかとなった。また、クラスター分析による学校教育目標の類型化からは、「市施策対応型 (10校)」「岡山伝統型 (13校)」「指導要領準拠型 (10校)」「全面強調型 (5校)」の4類型に分けられることが明らかにされた。

Keywords：教育課程，学校教育目標，クラスター分析，岡山市，中学校

1. 問題の所在と本研究の目的

(1) 教育課程の構造と岡山市立中学校の特徴

学校における教育課程とは「学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を生徒の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画」であり、一言で言えば、学校の教育活動の全体計画のことである。そして、この教育課程を編成する際には、「学校の教育目標の設定」「指導内容の組織」「授業時数の配当」の3つが基本的な要素になるとされている¹⁾。

本研究が対象としている岡山市立中学校の教育課程も同様である。岡山市立中学校の教育課程について規定する「岡山市立学校管理規則 (市教育委員会規則第6号，昭和38年12月7日)」第7条には「校長は、翌年度において実施すべき教育課程について様式第6号により教育課程編成表を作成し、毎年2月末日までに教育委員会に届け出なければならない。」と規定されており、その様式は図1の通りで

ある。岡山市の場合も「学校教育目標」、指導内容の重点を示す「指導の重点」、そして「授業時数の配当」が主な構成要素となっている。しかし、図1を見ると、紙面の大半が「授業時数の配当」であり、「学校教育目標」や「指導の重点」を書き込むスペースは小さい。そのため、教員の中には、教育課程とは「授業時数の配当表」であると考えているものもいる (岡山県内の多くの自治体が図1の様式と同じであるため、教育課程に対するこのような認識は岡山県内全域で見られる)。それゆえ、教育課程を編成する際も「授業時数の配当」が中心となり、「学校教育目標」「指導の重点」については毎年の検討が十分行われないことがある。

岡山県外の自治体の様式は必ずしも岡山市と同じではない。例えば、「学校教育目標」に加えて「本年度の重点目標」や「学校の教育目標を達成するための基本方針」を記載するようにしている自治体や、「指導の重点」を「各教科、道徳、外国語活動、総

岡山大学大学院教育学研究科 教職実践専攻 (教職大学院) 700-8530 岡山市北区津島中3-1-1

*岡山大学教師教育開発センター 700-8530 岡山市北区津島中3-1-1

A Study on the Curriculum of Junior High Schools in Okayama City; Analysis and Classification of the Educational Objectives

Yoshihisa SUMINO, Tomotaka MISHIMA*, Shigeo FUJIEDA, Mitsuhiro YAMASAKI*, Kouji MIYAMOTO, and Yasuyoshi IMAI*

Division of School Education, Graduate School of Education, Okayama University, 3-1-1 Tsushima-naka, Kita-ku, Okayama 700-8530

*Center for Teacher Education and Development, Okayama University, 3-1-1 Tsushima-naka Kita-ku, Okayama 700-8530

合的な学習の時間、特別活動」「特色ある教育活動」「生活指導・進路指導」等に分けて記述することを求めている自治体もある（例えば、東京都や沖縄県内の自治体）。

(2) 研究の目的

そこで、岡山市立中学校全38校がどのような教育課程を編成しているかを明らかにするために、岡山市において教育課程編成時に十分検討しにくい「学校教育目標」に注目する。そして、岡山市立中学校における学校教育目標の特徴を明らかにし、多変量解析の一つであるクラスター分析を用いて「学校教育目標」の設定の仕方の類型化を行うことを目的とする。

平成10年に、中央教育審議会答申「今後の地方教育行政の在り方について」²⁾において「教育委員会と学校の関係の見直しと学校裁量権限の拡大」が提起された。また、同年に公示された学習指導要領は「最低基準」と位置付けられ、特色ある教育・学校づくりが求められるようになった。こうした流を受けて、学校・地域・生徒等の実態を踏まえた特色ある学校教育目標を設定することが個々の学校に求められている。それゆえに、本研究が岡山市立中学校の特色ある教育課程編成に役立つことが期待される。

2. 研究の方法

本研究を進めるに当たって参考にしたのは、ベネッセ教育総合研究所の「学習指導基本調査」における耳塚寛明による研究（以下、「ベネッセ調査」と略す）である³⁾。「ベネッセ調査」では、調査対象となった各学校に対し、学校教育目標に含まれている言葉（類似した言葉も含む）を33項目の選択肢から複数回答で選択させた。そして、その頻度を分析するとともに、クラスター分析を用いて学校教育目標の類型化を行っている。本研究においても同様の方法を採用することで、岡山市と全国の比較ができると考えた。

そこで、岡山市教育委員会に対し、岡山市立中学校全38校の平成27年度教育課程における学校教育目標について情報提供を依頼した。そして、得ることができた全38校の学校教育目標に含まれている言葉を「ベネッセ調査」と同様の33項目の選択肢から選択した。この作業は「ベネッセ調査」と異なり、本研究に取り組んだ3名の研究者が行った。3名がそれぞれに各学校の学校教育目標に含まれている言葉を33項目から選び、その後それぞれが選択したものを持ち寄って比べ、判定が異なったところについては協議をして、最終的な判定を行った。このデータをもとに岡山市立中学校の学校教育目標に含まれている言葉の出現頻度を分析し、それを「ベネッセ調査」と比較することで、岡山市立中学校の特徴を明らかにした。

次に、学校教育目標の内容の類型化を行うために、「ベネッセ調査」と同様に多変量解析の一つであるクラスター分析を行った。クラスター分析の結果は全共同研究者で考察してその特徴を検討した。

3. 岡山市立中学校における学校教育目標の特徴

(1) 岡山市立中学校における学校教育目標の表現形式の多様性

岡山市教育委員会に届け出された教育課程編成表に記された学校教育目標は、表現の仕方も多様である。最も短いものは「自立して 心豊かに たくましく」の13文字であり、以下「心豊かでたくましい人間の育成」(14文字)、「心豊かな自立した生徒を育てる」(14文字)、「自立を目指す心豊かな生徒の育成」(15文字)などが続いている。それに対して、学校教育目標の中に「目指す生徒像」「目指す学校像」「重点目標」「具体的目標」等を含めている学校が7校あり、その場合は長くなる。例えば、「豊かな心・確かな学力の育成（目指す学校像）1 生徒が学校で学ぶことに喜びを感じ、意欲的、協力的に生活する学校 2 教職員が課題に正面から取り組み、

様式第6号(その2)(第7条関係)

| 年度 | | 教育課程編成表 | | | 岡山市立 中学校 | | | |
|----------------------|--------|---------|-----|----------------|---------------------------|------------------|-----|-----|
| | | | | | 校長氏名 | 印 | | |
| 学校教育目標 | 指標の重点 | | | | | | | |
| | 年間授業日数 | | | | | | | |
| 学年 | 1 | 2 | 3 | 授業時数の配当 | | | | |
| 日数 | | | | 区分 | 1 | 2 | 3 | |
| 授業時数の配当 | | | | 特別 学校 活動 | 学年 | 1 | 2 | 3 |
| 区分 | 1 | 2 | 3 | | 区分的行事 | | | |
| 国語 | | | | | 文化的行事 | | | |
| 社会 | | | | | 健康安全・体育的行事 | | | |
| 数学 | | | | | 旅行・集団宿泊的行事 | | | |
| 理科 | | | | | 勤労生産・奉仕的行事 | | | |
| 音楽 | | | | | 計 | () | () | () |
| 美術 | | | | | ()は総合的な学習の時間で代替した時間数(外数) | | | |
| 保健体育 | | | | | 1日の時数表 | その他学校の教育活動に関する事項 | | |
| 技術・家庭 | | | | | (通常) | | | |
| 外国語 | | | | | | | | |
| 道徳 | | | | | | | | |
| 総合的な学習の時間 | | | | | | | | |
| ()は特別活動を代替した時間数(内数) | | () | () | () | | | | |
| 特別活動 | 学級活動 | | | | | | | |
| | 生徒会活動 | () | () | () | | | | |
| 総授業数 | | | | | | | | |
| ()内の時数を除く | | | | | | | | |

図1 岡山市における教育課程の様式

連携・協力が密な学校 3 地域・保護者に愛され、積極的に協力してもらえ学校」や「共に支え合い心豊かにたくましく生きる生徒を育成する。〈めざす生徒像〉(知)自ら学ぶ生徒(徳)正しく行動する生徒(体)健康で明るい生徒」などである。これらの学校は、学校教育目標を具体化することで、教育課程を教育活動に生かそうとしていると言える。

以上のように、13字から100字を超えるものまで、岡山市立学校の学校教育目標の表現の仕方は多様でばらつきがある。そして、「目指す生徒像」を定めているにもかかわらず、それを学校教育目標に含める学校と含めない学校がある。学校教育目標として何をどのように示すべきなのか、判断が揺れていることが分かる。

(2) 岡山市立中学校における学校教育目標の内容分析

岡山市立中学校の学校教育目標で使われている言葉を33項目の選択肢の中から選んだ結果を、出現頻度の順にグラフ化したものが図2である。

最も頻度が高い項目は「心の教育 豊かな心」の65.8%であった。例えば、「豊かな心・確かな学力の育成」「心豊かでたくましく生きる生徒の育成」といった学校教育目標である。この項目が一番多いのは、平成22年に実施された第5回の「ベネッセ調査」の結果と同じである。

上位の項目を、「ベネッセ調査」と並べると、表1のようになる。

「ベネッセ調査」との相違点は、第一に「自主 自立 主体性」が2位に、「努力 向上心 がんばる」が5位（「ベネッセ調査」では18位）に位置付いていることである。「自主 自立 主体性」が2位に位置付いているのは、平成19年4月に施行された「岡山市市民協働による自立する子どもの育成を推進する条例（岡山っ子育成条例）」において「自立する子どもの育成」が岡山市の教育・子育ての目標とされたことを反映したものであると言える⁴⁾。第二に、「人権尊重」が7位（「ベネッセ調査」では13位）に位置付いていることも特徴である。これは、岡山市では伝統的に人権教育が重視され、「岡山市教育振興基本計画」⁵⁾において岡山市の教育理念として「市民協働による自立する子どもの育成」と並んで「人権尊重の理念に基づく教育の推進」が位置付けられていることを反映したものと考えられる。

なお、「基礎基本」「素直明るい」「体験」「学習習慣」「興味関心」「情操」「情報化」「ゆとり」の8項目

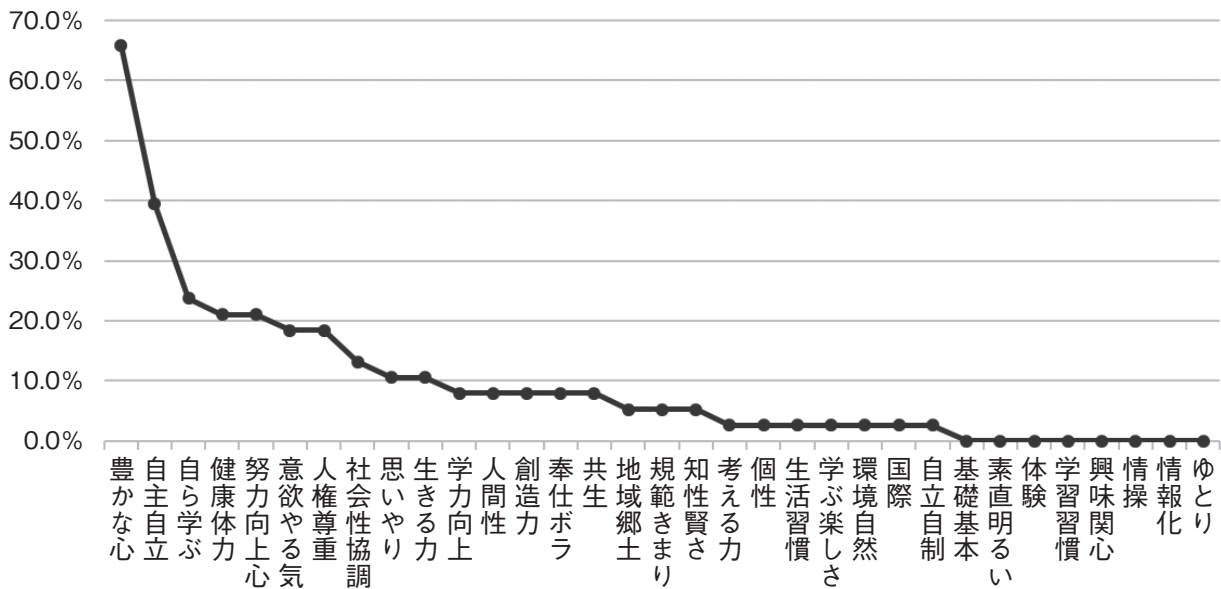


図2 岡山市立中学校の学校教育目標の内容 (33項目の出現頻度)

表1 学校教育目標における33項目の出現頻度上位項目の比較

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 | 6位 | 7位 |
|------|--------------|-------------|----------------|-------------|----------------|-------|--------------|
| 岡山市 | 心の教育 豊かな心 | 自主自立 主体性 | 自ら学ぶ力 自己学習力 | 健康体力 | 努力向上心 がんばる | 意欲やる気 | 人権尊重 |
| ベネッセ | 心の教育 豊かな心 | 健康体力 | 思いやり | 自主自立 主体性 | 自ら学ぶ力 自己学習力 | 生きる力 | 学力向上 学力定着 |

目は全く使われていない。他方、第5回「ベネッセ調査」の出現頻度下位項目は最下位のものから「ゆとり」「情報化」「国際」「興味関心」「情操」「環境自然」「共生」となっており、岡山市では0校の「基礎基本」は「ベネッセ調査」では8位、「学習習慣」は19位である。したがって、岡山市においては、いわゆる「確かな学力」に関する項目のいくつかが学校教育目標に位置付けられていないことを特徴として指摘することができる。

4. 岡山市立中学校における学校教育目標の類型化

岡山市立中学校の学校教育目標の内容のクラスター分析の結果は、表2のようになった。

①市施策対応型（10校）

このグループは、「自主 自立 主体性」の出現頻度が際立って高い。また、「環境 自然」「国際 国際社会」「共生」「社会性 協調性」といった項目が出現している。上述したように、「自主 自立 主体性」の出現頻度が高いのは、岡山っ子育て条例が示す「自立する子どもの育成」という目標を反映したものである。また、「環境 自然」「国際 国際社会」などの項目は、岡山市が推進する「ESD（持続可能な開発のための教育）」及び「ユネスコスクール」の目標・理念を反映したものと考えられる⁶⁾。このグループに属する10校のうち、5校が「ユネスコスクール」に加盟している。

表2 岡山市立中学校の学校教育目標の類型

| | 市施策対応型 (10校) | 岡山伝統型 (13校) | 指導要領準拠型 (10校) | 全面強調型 (5校) | 全体 |
|-----------------------|-----------------|----------------|------------------|---------------|-------|
| 心の教育 豊かな心 | 90.0% | 7.7% | 100.0% | 100.0% | 65.8% |
| 自主 自立 主体性 | 90.0% | 30.8% | 0.0% | 40.0% | 39.5% |
| 自ら学ぶ力 自己学習力 | 0.0% | 7.7% | 40.0% | 80.0% | 23.7% |
| 健康体力 | 0.0% | 7.7% | 30.0% | 80.0% | 21.1% |
| 努力 向上心 がんばる | 0.0% | 46.2% | 0.0% | 40.0% | 21.1% |
| 意欲 やる気 | 10.0% | 0.0% | 10.0% | 100.0% | 18.4% |
| 人権尊重 | 0.0% | 30.8% | 0.0% | 60.0% | 18.4% |
| 社会性 協調性 | 30.0% | 15.4% | 0.0% | 0.0% | 13.2% |
| 思いやり | 0.0% | 7.7% | 10.0% | 40.0% | 10.5% |
| 生きる力 | 0.0% | 15.4% | 10.0% | 20.0% | 10.5% |
| 学力向上 学力定着 | 0.0% | 7.7% | 10.0% | 20.0% | 7.9% |
| 人間性 | 20.0% | 7.7% | 0.0% | 0.0% | 7.9% |
| 創造性 創造力 | 20.0% | 0.0% | 0.0% | 20.0% | 7.9% |
| 奉仕 ボランティア | 0.0% | 7.7% | 0.0% | 40.0% | 7.9% |
| 共生 | 10.0% | 7.7% | 0.0% | 20.0% | 7.9% |
| 地域 郷土 | 0.0% | 7.7% | 10.0% | 0.0% | 5.3% |
| 社会規範 きまり | 0.0% | 0.0% | 10.0% | 20.0% | 5.3% |
| 知性 賢さ | 0.0% | 15.4% | 0.0% | 0.0% | 5.3% |
| 思考力 考える力 | 10.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 2.6% |
| 個性 一人ひとり | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 20.0% | 2.6% |
| 基本的な生活習慣 | 0.0% | 7.7% | 0.0% | 0.0% | 2.6% |
| 学ぶ楽しさ | 0.0% | 0.0% | 10.0% | 0.0% | 2.6% |
| 環境 自然 | 10.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 2.6% |
| 国際 国際社会 | 10.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 2.6% |
| 自律 自制 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 20.0% | 2.6% |
| 基礎・基本 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 素直 明るい 朗らか | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 体験 体験的学習 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 学習習慣 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 興味 関心 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 情緒 情操 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 情報化社会 情報技術 情報リテラシー | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| ゆとり | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |

* 20%以上の数値に網掛けをしている。

②岡山伝統型（13校）

このグループは、他のグループと異なり、「豊かな心」「自ら学ぶ力 自己学習力」といった学習指導要領が提起するキーワードの出現率が低い。また、「努力 向上心 がんばる」「人権尊重」「自主 自立 主体性」といった岡山市立中学校に特徴的な項目の出現頻度が高い。このグループに属するものの中には、平成の大合併前からの旧岡山市の市街地に属する中学校、さらに生徒指導上の困難に直面したり、伝統的に人権教育に取り組んだりしてきた中学校が多い。こうした学校の置かれている環境や伝統が学校教育目標に反映されている。

③指導要領準拠型（10校）

このグループは、「豊かな心」「自ら学ぶ力 自己学習力」「健康体力」という学習指導要領が提起する「生きる力」に関する項目の出現率が高い。德育・知育・体育という学校教育目標を設定する際のオーソドックスな3観点を、教育課程編成の国の基準である学習指導要領の言葉を使って表現していると言える。他方で、「自主 自立 主体性」という項目がなく、岡山市の教育施策・方針とのすり合わせは十分検討されていない可能性がある。

④全面強調型（5校）

このグループは、多くの種類の項目の出現頻度が高い。学校教育目標の中に「目指す生徒像」等も含ませて、多岐にわたる内容を学校教育目標に位置付けている。このグループに属する学校には、平成の大合併後に岡山市に編入された地域の中学校や統廃合を経た中学校が多い。こうした経緯を経た学校では、多くの内容を含み持った学校教育目標が設定されることが考えられる。

5. 岡山市立中学校における学校教育目標の改善・充実に向けて

ここまで、岡山市立中学校の学校教育目標の特徴を明らかにし、その類型化を行ってきた。この結果を踏まえて、今後岡山市立中学校の学校教育目標の改善・充実に必要なことを指摘しておきたい。

①学校教育目標の表現形式の共有化

岡山市立学校における学校教育目標の表現形式は多様で、大きな差異があった。学校教育目標に「目指す生徒像」などの具体的な内容をどこまで書き込むのかについて共有されていない現状が垣間見られた。そもそも学校教育目標とは何かを改めて検討され、岡山市立学校全体で共有される必要があると思

われる。教育課程編成表の学校教育目標欄に、何について、どの程度の分量で学校教育目標を示すべきか、表現形式に関わる部分については、教育課程を管理する教育委員会がモデルを提示してもよいのではないか。

②学校教育目標の内容の前提と評価可能性

『中学校学習指導要領解説－総則編』には、各学校で設定する教育目標は、次のような要件を具備する必要があると述べている⁷⁾。

- (1) 法律に定められた中学校の目的や目標を前提とするものであること。
- (2) 学習指導要領に示す各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の目標やねらいを前提とするものであること。
- (3) 教育委員会の規則、方針等に従っていること。
- (4) 地域や学校の実態等に即したものであること。
- (5) 教育的価値が高く、継続的な実践が可能なるものであること。
- (6) 評価が可能な具体性を有すること。

つまり、学校教育目標は教育基本法や学校教育法などの法令、学習指導要領、教育委員会の規則・方針等に基づくものであるという性格を有するため、多方面に配慮の行き届いた包括的なものとして設定することが求められる。また、それと同時に、学校教育目標は普遍的で抽象的なものではなく、地域や学校の実態等に即し、継続的な実践と達成度の評価が可能な具体性のあるものでなければならない。岡山市立中学校の学校教育目標には「豊かな心」や「思いやり」など、達成度の評価が難しい項目が上位に位置付いている。「教育課程評価」「学校評価」の評価項目に、学校教育目標の達成度に関わる項目を位置付け、その達成度の評価に取り組みながら、学校教育目標の内容を評価可能なものへと見直していくことが求められる。

③特色ある教育・学校づくりと特色ある学校教育目標の設定

学校教育目標は、地域や学校の実態等に即したものであること、そして、各学校の特色ある教育・学校づくりを実現できるものであることが求められている。このような特色ある学校教育目標を設定するには、地域や学校の実態を分析し、どのような特色ある教育が必要であるかよく研究をすること、そして、創造的かつ自律的に学校教育目標を設定することが必要である。表2からは、1校しか該当しなかった項目（「全体」が2.6%のもの）が「思考力 考える力」「個性 一人ひとり」「基本的生活習慣」「学

ぶ楽しさ」「環境 自然」「国際 国際社会」「自律 自制」の7項目、2校のみ該当した項目（「全体」が5.3%のもの）が「地域郷土」「社会規範 きまり」「知性 賢さ」の3項目である。これらの項目を学校教育目標に位置付けている学校は、地域や学校の実態を分析した上で、これらの項目を抽出し、創造的かつ自律的に学校教育目標に位置付けたと判断することができる。

④学校教育目標を達成するための校内研究との関連付け

学校教育目標を達成するために、教育課程において「指導の重点」欄に具体的に取り組もうとする指導の重点事項が示され、「授業時数の配当」欄に必要な授業時間が確保される。こうして学校が取り組む様々な教育活動と、学校教育目標を達成するための取り組みが重なり合っていく。しかし、抽象度の高い岡山市立中学校の学校教育目標を日常的な教育活動と重ね合わせていくためには、校内研究の重点と連動することが求められる。学校教育目標を達成するための教育活動のあり方が研究され、共有され、協働される必要があるからである。

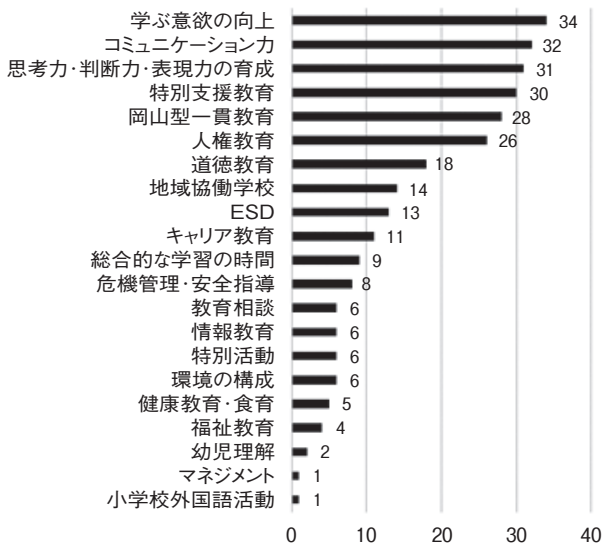


図3 平成28年度 校内研究の計画の取組に関する教育課題（キーワード） 中学校38校

図3は、平成28年度の岡山市立中学校全校における「校内研究の計画の取組に関する教育課題（キーワード）」をグラフ化したものであるが⁸⁾、これによると「学力」「学び」に関する項目が多く取り上げられている。他方、学校教育目標で最高の出現頻度であった「心の教育 豊かな心」に対応する内容は「人権教育」「道徳教育」などの数項目に限られ、生徒指導に関する項目、例えば「規範意識」や「礼

儀・マナー」等もない。

学校教育目標の検討と連動させる形で、校内研究のテーマ等の検討を行う必要があると言える。

⑤次期学習指導要領への対応をきっかけに

平成28年度中に、次期の学習指導要領が公示される予定である。次期学習指導要領は、子どもたちに育成すべき資質・能力を新たに提起するとともに、「社会に開かれた教育課程」を編成し、教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の重要性を提起するものになる。そのために、第1章総則の内容構成を大幅に改める予定となっている。つまり、次期学習指導要領は各学校の学校教育目標の見直しを求めるものとなるであろう⁹⁾。次期学習指導要領に基づく教育課程を編成する際に、岡山市の学校はどのような資質・能力を育成していくのか、そのためにどのような教育活動を目指すのか学校教育目標の見直しを含めた全面的な教育課程の改訂が必要であろう。

謝辞

本研究を進めるにあたって、岡山市立中学校の全学校の教育課程に関する情報を、岡山市教育委員会様よりいただきました。お礼申し上げます。

- 1) 文部科学省『中学校学習指導要領解説－総則編』平成20年、10ページ。
- 2) 中央教育審議会「今後の地方教育行政の在り方について（答申）」平成10年9月1日。
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/old_chukyo/old_chukyo_index/toushin/1309708.htm)
- 3) ベネッセ教育総合研究所による「学習指導基本調査」は「小学校・中学校における学習指導の実態と教員の意識」を調査するために数年ごとに実施されている。最新は「第5回学習指導基本調査（小学校・中学校版）」（2010年）であり、2010年8月～9月に、全国の公立小学校（校長560名、教員2,688名）・中学校（校長573名、教員2,827名）を対象として実施された。
(<http://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/detail1.php?id=3243>)。
- 4) 「岡山市市民協働による自立する子どもの育成を推進する条例」（平成19年）に関しては、次のWEBサイトを参照されたい。
http://www.city.okayama.jp/kyouiku/kyouikusoumuka/kyouikusoumuka_00050.html
- 5) 「岡山市教育振興基本計画」（平成25年）につ

いては、次のWEBサイトを参照されたい。

http://www.city.okayama.jp/kyouiku/kyouikusoumuka/kyouikusoumuka_t00007.html

- 6) 岡山市は、以前から主に社会教育分野でESDを推進してきたが、平成26年に「ESDに関するユネスコ世界会議（ステークホルダー会合）」等を開催するにあたって、岡山市立小・中学校のユネスコスクールへの加盟を進めるとともに、同年に「持続可能な開発のための教育の推進に関する条例」を制定し、岡山市の設置する全ての教育機関に「自らの教育活動全体の中で総合的にESDに関する取組を行うよう努めなければならない」

という責務を課している。

- 7) 文部科学省 前掲書 92ページ。

- 8) 岡山市教育委員会による「平成28年度校内外研究の計画」における「取組に関連する教育課題（キーワード）」の記載事項に基づき藤枝が作成。

- 9) 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会教育課程企画特別部会「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ（案）」平成28年8月19日より。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/_icsFiles/afieldfi/2016/08/22/1376199_2_1.pdf